

PL02 II

Ver 1.x
Patch Mon H Ver 1.x

取扱説明書

この説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。その後大切に保存し必要なときにお読みください

安全上のご注意

- ご使用前に、この『安全上のご注意』をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。
- ここに示した注意事項は、お使いになる人や、他の人への危害、財産への損害を未然に防止するための内容を記載していますので必ずお守り下さい。
- ◆次の表示区分は、表示内容を守らず、誤った使用をした場合に生じる危害や損害の程度を説明しています。

 警告	この表示は、取り扱いを誤った場合、 死亡または重傷 などを負う可能性が想定される内容です。
 注意	この表示は、取り扱いを誤った場合、 傷害 を負う可能性が想定される場合及び物的損害のみの発生が想定される内容です

- ◆次の絵表示の区分はお守りいただく内容を示しています。

 禁止	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
 強制	このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。



警告

- ⊘ 分解、改造をしない
火災、感電、故障の原因になります。
- ⊘ 金属類を差し込まない
隙間などから金属類を差し込んだりしないで下さい。火災感電故障の原因になります。
- ⊘ 濡らさない
水などの液体が入ると発熱、火災、感電、故障の原因になります。
- ❗ ACコンセントは確実に差し込む
コンセントの差込が不完全だと発熱、火災、感電の原因になります。
- ❗ コネクターは確実に差し込む
コネクターの差込、締め付けが不完全だと発熱、火災、感電の原因になります。
- ⊘ ACコードを傷つけない
コードを無理に曲げたり加工したり、引っ張ったり、重い物を乗せたりしないで下さい。
- ❗ 異常が起きたときは
万一、発煙、異臭、異常音などがあった時は直ちにACコンセントを抜いて販売店にご連絡下さい。そのまま使用すると火災、感電、故障の原因になります。



注意

- ⊘ 煙や湯気が当たる場所に置かない
火災、感電、故障の原因になります。
- ⊘ 湿気やほこりの多い場所に置かない
火災、感電、故障の原因になります。
- ⊘ 不安定な場所や振動の多い場所に置かない
落ちたり、倒れたりするとけが、故障の原因になります。
- ⊘ ACコンセントから抜くときはプラグをもって抜く
コードを引っ張るとコードが傷ついて火災、感電、故障の原因になります。

目次

1. 概要	1
2. 設置について	1
3. 動作・設定	1
3-1. 電源投入	1
3-2. 本体設定	2
3-3. PC の設定	2
3-4. 編集ソフト	5
3-5. 初期設定	5
3-6. 接続	6
3-7. 編集タブページ	6
3-7-1. パッチ	7
3-7-2. 負荷属性	9
3-7-3. カーブ	10
3-8. 編集メニュー	11
3-8-1. ファイルメニュー	11
3-8-2. 編集メニュー	12
3-8-3. リモートメニュー	12
3-8-4. 表示メニュー	13
3-8-5. 設定メニュー	13
4. 入出力	13
4-1. DMX 入出力	13
4-2. 接点入力	13
5. 付録	14
5-1. 仕様	14

1. 概要

本機は、DMX 1024 chの入出力を任意のチャンネルにパッチすることが出来るものです。

- チャンネルパッチパターンを8パターン製作することが出来、本体の Menu で切替か、接点により呼び出す事が出来ます。
- 呼出に連動したタリ一信号を出力することが出来ます。
- 各チャンネル事にカーブを設定することが出来、カーブの編集を行うことが出来ます。
- WindowsPCを繋ぐ事で設定を行ったり、設定を保存、読み込み出来ます。

2. 設置について

本機の設置にあたっては以下の注意を守って下さい。

- 直射日光の当たる場所、周囲温度・湿度の高い場所、ほこりの多い場所での使用は避けて下さい
- DMX信号ケーブルは電源ケーブルと一緒にしないで下さい。またマイク等の小レベル信号のケーブルと一緒にするとノイズを与える可能性がありますので、できるだけ避けて下さい。
- ケーブル類の着脱は必ず電源がOFFの状態で行って下さい。
- 電源は定格以内で、変動やノイズの少ない物を使用して下さい。また調光ユニットの出力は絶対に使用しないで下さい。

3. 動作・設定

3-1. 電源投入

1. 全ての接続が終了したら、電源を差し込んで下さい。
2. 液晶が表示され、現在選択されているパッチパターンの番号と DMX 入力の状況が表示されます。

PATTERN 1	現在のパッチパターン
A IN * B IN N	DMX入力インジケータ 入力表示 * : 入力有り N : 入力無し

DMX が入力されている場合は、対応した入力ポートが '*' のマークで点滅します。

3-2. 本体設定

1. パッチパターンの設定・選択

MENU ボタンを押します。

```
## PATTERN ##
      1
```

パッチパターンの選択画面に切り替わります。

ENTER を押して下さい。

```
# SEL PATTERN #
>PATTERN 1
```

パターン番号を▼ ▲ で選択し ENTER を押します。

ENTER を押します。

2. パッチの編集

MENU ボタンを押します。

```
## PATTERN ##
      1
```

この画面で▼ ▲ を押すとパッチの編集に切り替わります。

```
## EDIT PATCH ##
```

ENTER を押します。

```
## PATCH ##
OUTA001 IN ----
```

パッチ編集画面に切り替わります。

ここで表示されるパッチは、'PATTER' で選択されたパッチパターンとなります。

OUT に対して、IN を割り当てていきます。

選択出来るのは、A001-A512、B001-B512 の 1024ch 分です。

OUT を選択して、ENTER を押し、IN を選択して、ENTER を押して下さい。これを繰り返していきます。

編集中に MENU ボタンを押すといつでもトップ画面に戻ります。

3-3. PCの設定

本機は、USB 端子を使って WindowsPC から設定を行い、設定を保存、読み込むことが出来ます。

ドライバーの設定

製品に付属している USB メモリーを、PC に接続し、メモリーの中にある driver フォルダから『CDM2XXXXX_Setup.exe』をダブルクリックして、実行してください。実行を行うと、ウィンドウが開き、自動的にインストールが行われます。インストール終了後に、次のページで説明しますデバイスマネージャーで、COM ポートの確認を行い、製品と PC を接続してください。

※ドライバーのインストールは、製品を接続して、ソフトウェアを立ち上げる前に行ってください。

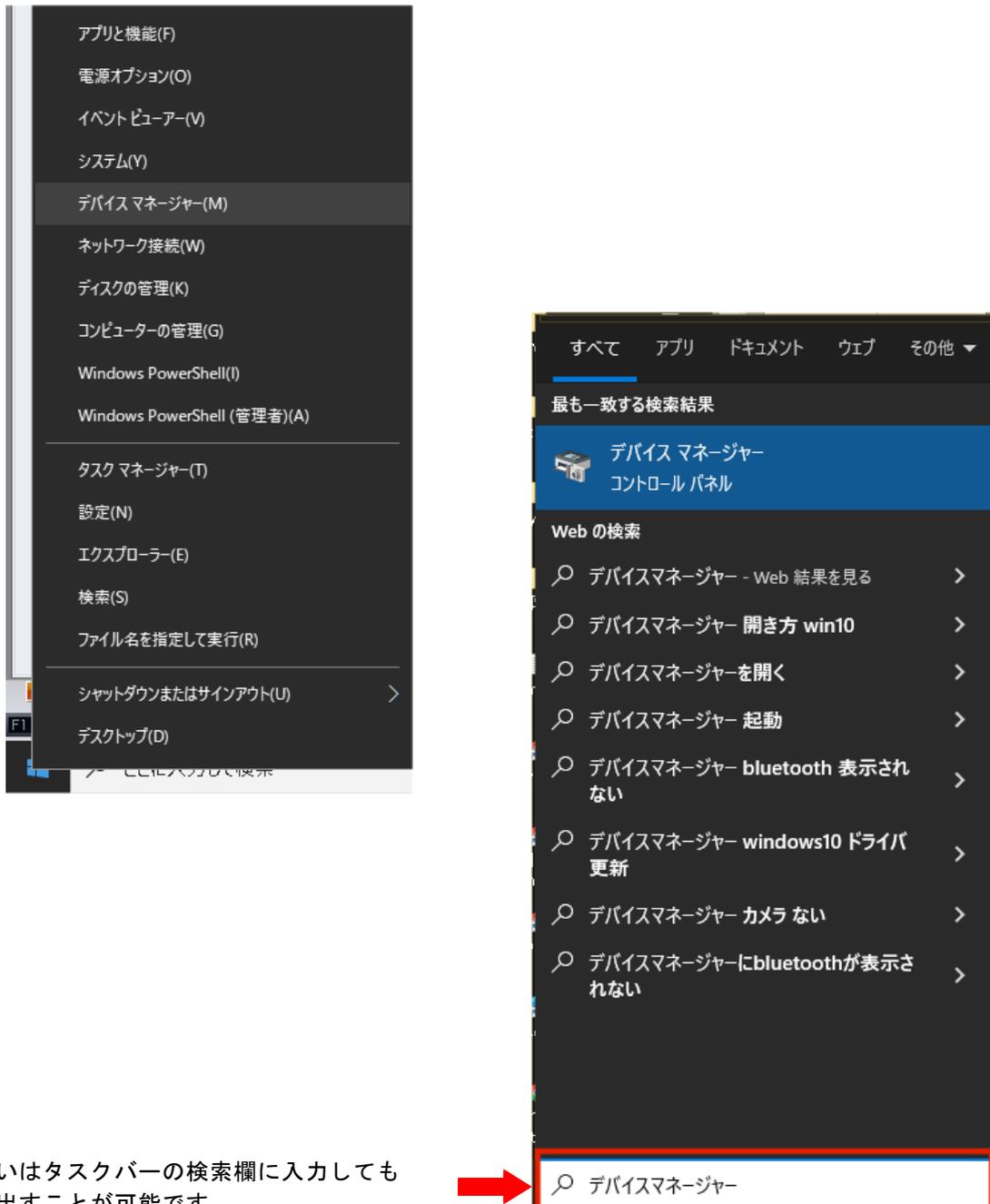
COMポート番号の確認

仮想 COM ポートドライバをインストール後、COM ポートが何番に割り当てられているか確認します。
この COM ポート番号は変更する事も出来ます。

まず、本機を PC に接続して下さい。

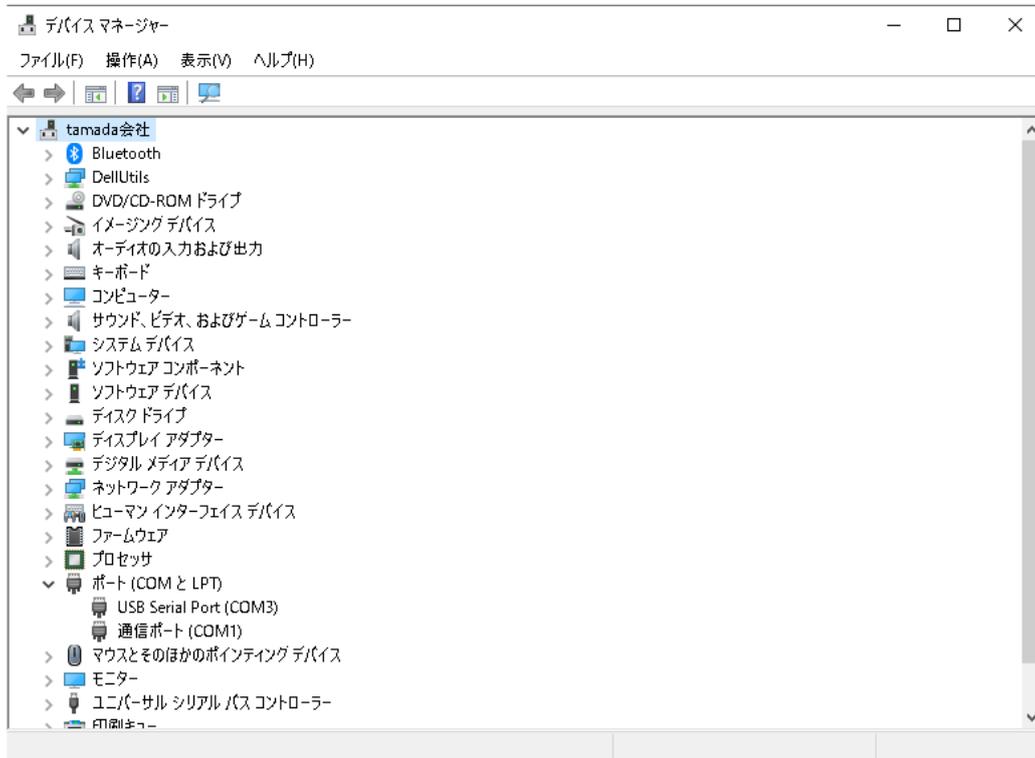
Windows のデバイスマネージャーで確認します

1. Windows マークを右クリックしてリストから「デバイスマネージャー」を選択します。



あるいはタスクバーの検索欄に入力しても呼び出すことが可能です

2. 開いたデバイスマネージャーで「ポート (COM と LPT)」を開くと、「USB Serial Port (COM X)」と表示されています。(下の画像の場合は COM 3)



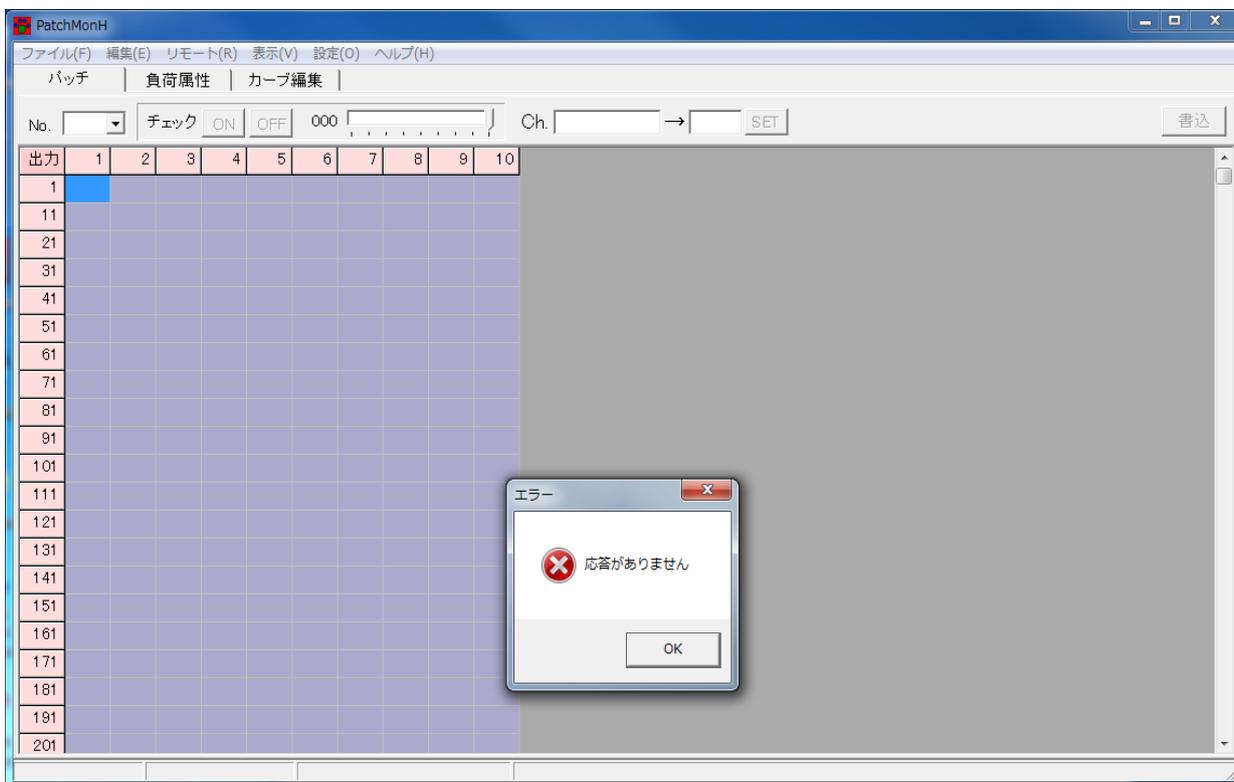
この一覧で、「USB Serial Port (COM x)」が、**PL02 II** に割り当てられた **COM** ポートです。**COM** 番号を確認してください。

パソコンからは、この **COM** ポートへアクセスすることで、**PL02 II** と通信できます。

3-4. 編集ソフト

付属 USB メモリー内の PatchMonH フォルダを、フォルダごと PC にコピーしてください。
フォルダ内にある PatchMonH.exe を実行すると、ソフトウェアが立ち上がります。

本機と PC が繋がっていない場合や設定が正しくない場合は次の様な **ERROR** が表示されます。



OK をクリックすると



編集モードで起動するか確認メッセージが出ます。
そのまま起動する場合は「はい (Y)」を選択します。

3-5. 初期設定

設定のオプション設定を開きます。



前ページ「COM ポート番号の確認」で調べた COM ポート番号を設定します。

※ここで、入出力の最大 Ch の設定できます。
また、入力→出力モードでのパッチ設定時に、警告が必要な際には、チェックを入れてください。

3-6. 接続

PC と本体が USB ケーブルで繋いでリモート - リモート再接続を選択すると接続されて、現在有効になっているパッチ No. (カレントパッチ) の内容がパッチユニットから読み込まれ、【パッチ】タブページのテーブルに表示されます。

また、負荷属性 (負荷毎のカーブ) およびカーブ定義データも同時に読み込まれます。

3-7. 編集タブページ

本製品の設定や編集は「Patch Mon H」のソフトウェア上で行い、画面のタブで項目を切り替え、それぞれの必要な設定を行います。

画面のタブには、**パッチ・負荷属性・カーブ** があります。

設定が終了したら、それぞれのページで書込ボタンまたはリモートメニューの「書込」によってパッチユニットへの書込を行ってください。

またファイルメニューによって、設定内容をファイルに保存したり、既存のファイルから読み込んで利用することもできます。

次のページより、実際のソフトウェア上の設定について上記に記載したタブ事に説明致します。

3-7-1. パッチ

パッチ編集操作は、【パッチ】タブページで行います。

パッチパターンは、最大8パターン登録可能です。

パッチ No.の変更は、画面左上のパッチ No.コンボボックスで選択してください。

カレントパッチ No.はパッチユニットの電源を切っても保持されます。

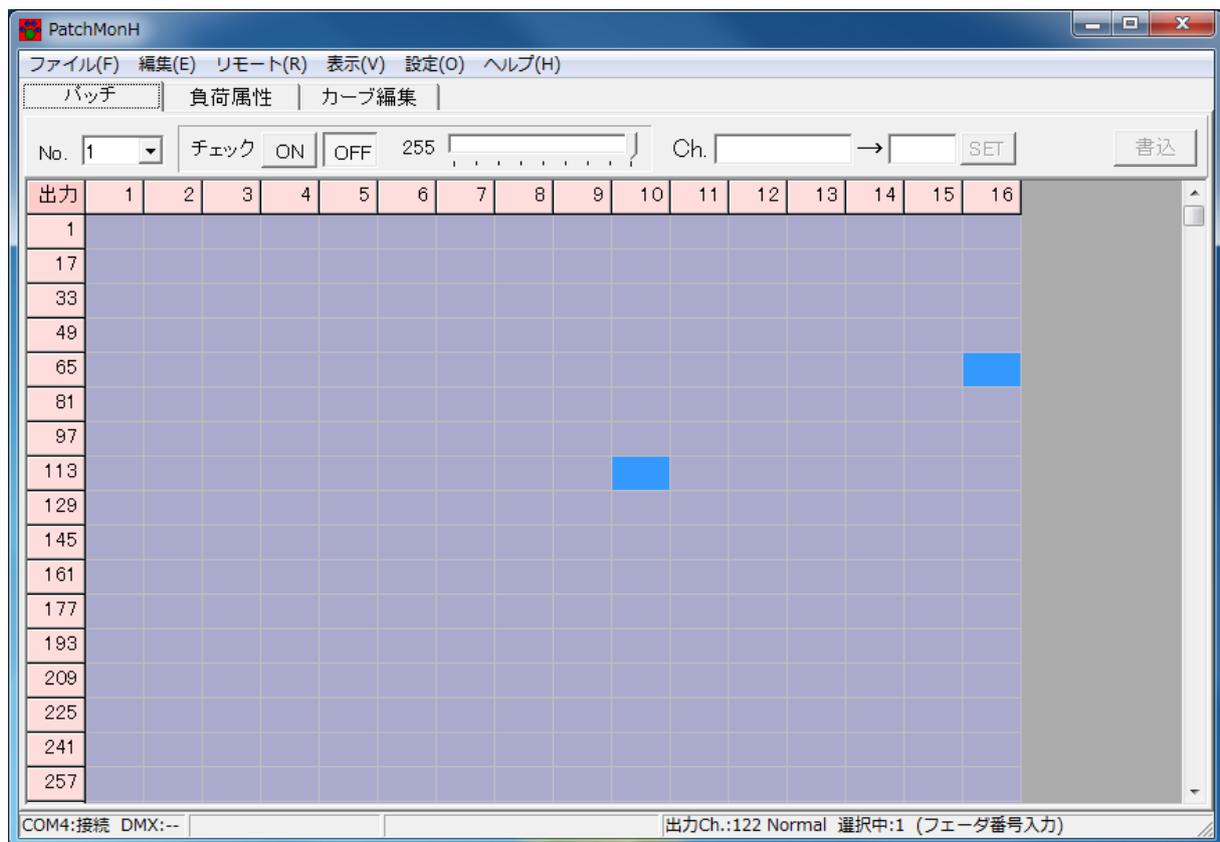
パッチテーブルの表示形式には、出力→入力および入力→出力モードがあり、

表示メニューでいつでも切り替えることができます。

さらに、「DMX チャンネルを A/B 表示」を選択すると、チャンネル表記が 1 ~ 1024 から、

ポートごとの A1 ~ A512・B1 ~ B512 に切り替えることができます。

チャンネル設定は、1 ~ 1024、A1 ~ A512・B1 ~ B512 のどちらの書式でも設定することが可能です。



出力→入力モード

出力→入力モードの場合、選択した出力チャンネルのセルに、割り当てたい入力チャンネル

(フェーダ No.)を入力してください。接続を解除したい場合は、Delete キーを押すか、

右クリックメニューの「接続解除」を選びます。また FULL (FUL,FF でも可)と入力すると、

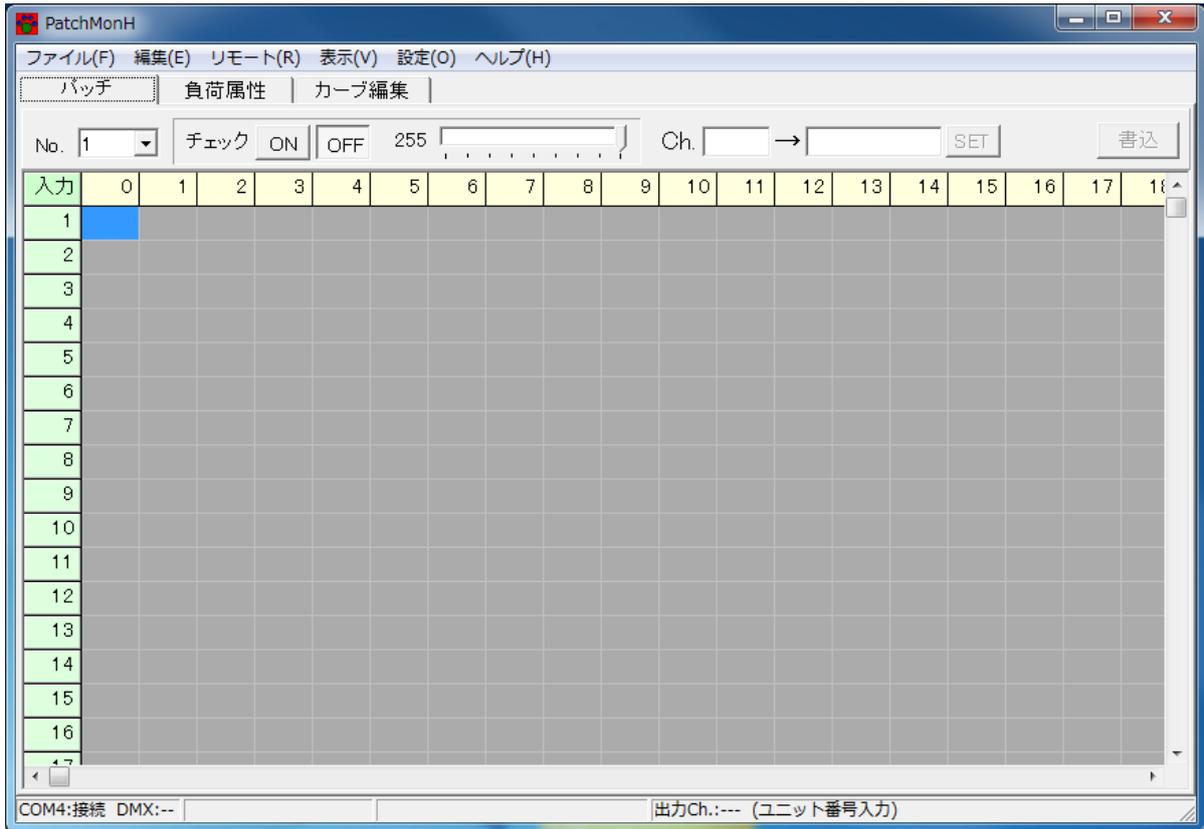
常時フル ON となります。

複数のセルを選択すると、一括して接続・解除あるいは右クリックメニューから連番チャンネル設定

を行えます。対象範囲はマウスドラッグか、あるいは先ず 1 個のチャンネルを選択し、続いて Shift キー

を押しながらその前後のチャンネルをマウスあるいはカーソルキーで選択してください。

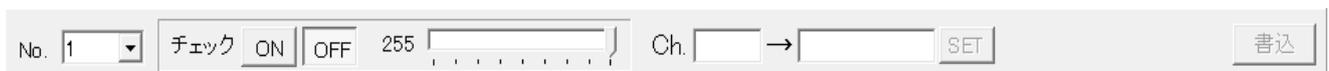
また Ctrl キーを押しながらクリックすると、そのチャンネルが追加選択されます。



入力→出力モード

入力→出力モードの場合、選択した入力チャンネルのセルに、割り当てたい出力チャンネルを入力してください。この際、" , "や " - "を使うことにより複数のチャンネルを一度に設定することも可能です(例: 1,2 、 5-10 、 A1-A20)。

オプション設定で、**入力→出力モードで既存パッチを警告する**にチェックを入れているときには、すでにパッチされているチャンネルを入力した場合に、警告メッセージを出ます。



チェック ON ボタンを押すと(リモートメニューからも可)、出力チェック機能が有効になります。テーブルで現在選択されている位置の出力チャンネルに対して、レベルスライダーで設定されている値が強制的に出力されます。**OFF** ボタンを押すと、出力チェック機能が解除され通常動作に戻ります。

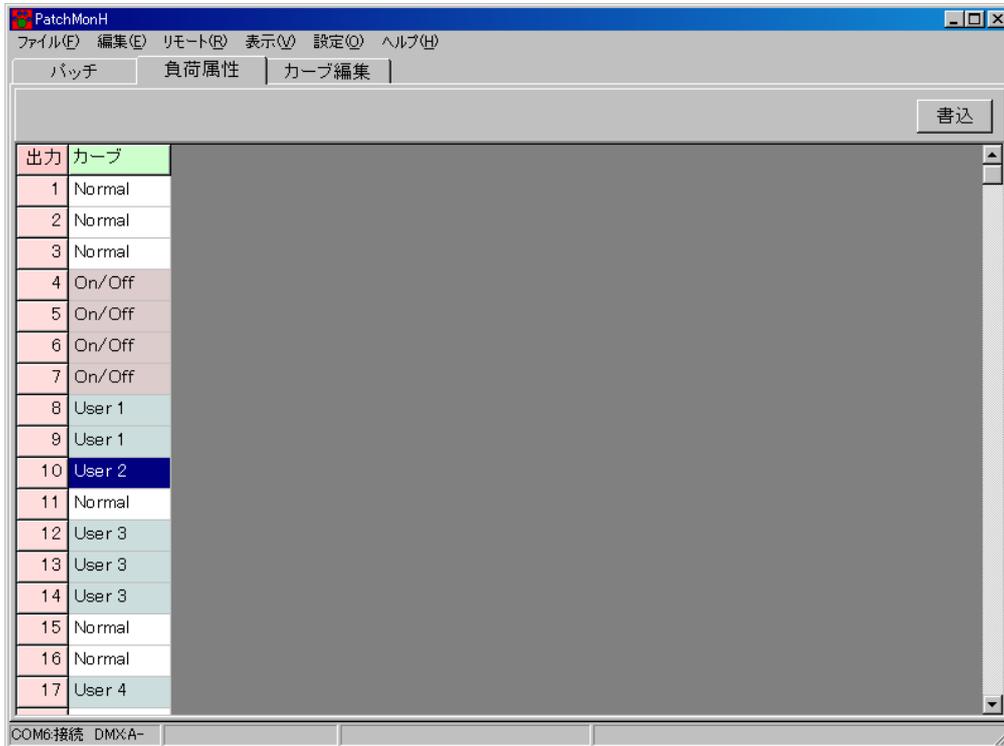
Ch. → の項目は、ここで設定したパッチデータが、パッチの表に反映されます。パッチの入力は、設定時のパッチ表記が出力→入力か、入力→出力に合わせた入力となります。

※注意

変更した内容はすぐにパッチユニットにも伝えられ実際の出力に反映されます。しかし、この段階ではパッチユニット内のメモリにはまだ書き込まれていません。パッチユニットの電源を切ってもパッチ内容が保持されるようにするためには、**書込**ボタン(リモートメニューからも可)を押してください。

3-7-2. 負荷属性

負荷属性の設定は、【負荷属性】 タブページで行います。



負荷チャンネル(1 ~ 1024)毎に、調光カーブ(**Normal**、**On/Off**、**User 1 ~ 4**)を個別に指定できます。設定したいチャンネルを選び、**Enter** キーを押すかダブルクリック、もしくは右クリックで表示される「**付加属性の変更**」を選択するとコンボボックスが表示されますので、カーブを選択してください。

また、連なる複数の負荷チャンネルの調光カーブを指定する際は、左クリックを押したままカーソルを動かし選択を行い、右クリックで「**付加属性の変更**」をという事で設定することができます。

また **Delete** キーを押すと、そのチャンネルのカーブがデフォルトの **Normal** に戻ります。

設定が終わったら、書込ボタンまたはリモートメニューの「**書込**」でパッチユニットへの書込を行ってください。

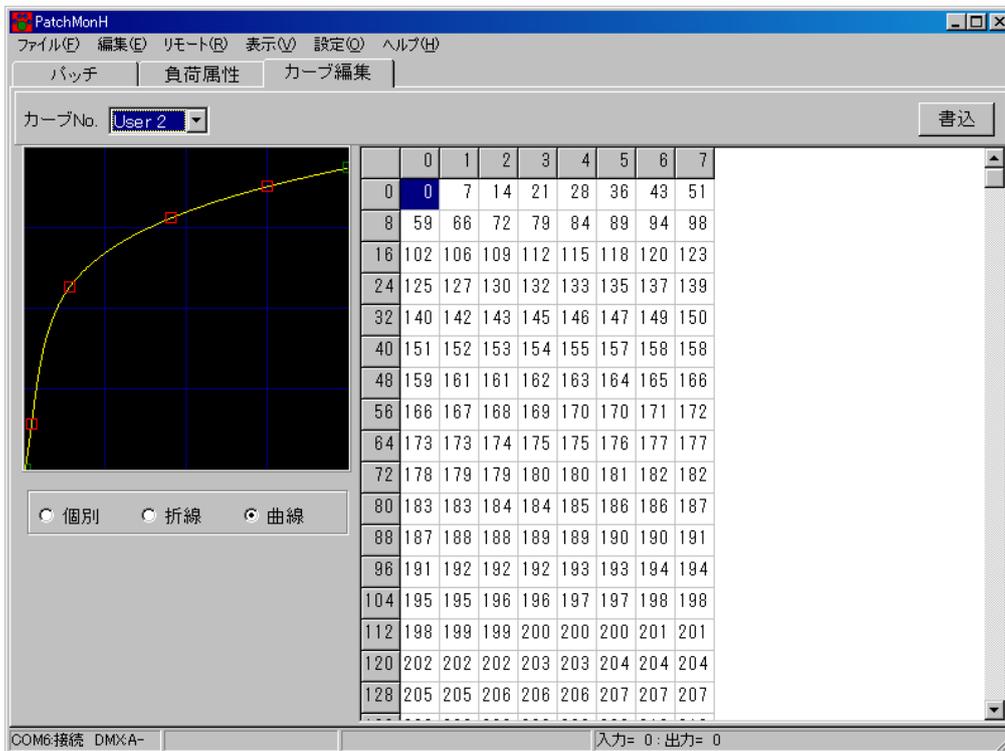
また**ファイル**メニューによって、設定内容をファイルに保存したり、既存のファイルから読み込んで利用することもできます

なおユーザ定義カーブ(**User 1 ~ 4**)は【**カーブ**】 タブページで自由に編集できます。

3-7-3. カーブ

ユーザ定義カーブ(**User 1 ~ 4**)の編集は、【**カーブ**】 タブページで行います。

4種類のカーブを自由に定義して、それらを負荷属性として個別に割り当てることができます。なおカーブには、あらかじめ定義されている **Normal** (直線 出力=入力)と **On/Off** (入力 **128** 以上で出力が **255**)があります。



まず、編集したいカーブを(**User 1 ~ 4**)を選んでください。

カーブの入力モードには、**個別**、**折線**、**曲線**の3種類があります。

個別の場合、画面右側の一覧表で、入力値 **0 ~ 255** に対する出力値を個別に設定してください。

折線および**曲線**の場合は、右クリックメニューで**構成点**(最大 **15** 個)を追加し、それらをマウスでドラッグすると自由にグラフの形を変えられます。この場合一覧からの数値入力はありません。

編集が終わったら、**書込**ボタンまたはリモートメニューの「**書込**」でパッチユニットへの書込を行ってください。

また**ファイル**メニューによって、設定内容をファイルに保存したり、既存のファイルから読み込んで利用することもできます。

3-8. 編集メニュー

ソフトウェアのメニュー一覧をメニュー項目事に説明致します。

3-8-1. ファイルメニュー

現在開いているタブページに応じて、以下のようなメニュー項目が表示されます。

●全ページ共通

○全データをファイルに保存

全パッチ、負荷属性、カーブを一括して一つのファイル(.dat)に保存します。

○全データをファイルから読込・転送

あらかじめ保存してあった全データのファイル(.dat)を読み込んで、ユニットに転送・書込します。

○終了

プログラムを終了します。

●【パッチ】 ページ

○全パッチをファイルに保存

全てのパッチ内容をファイル(.pat)に保存します。

○このパッチをファイルに保存

カレントパッチの内容をファイル(.pt1)に個別保存します

○全パッチをファイルから読込・転送

あらかじめ保存してあった全パッチ内容ファイル(.pat)を読み込んで、ユニットに転送・書込します。

○このパッチをファイルから読込・転送

個別に保存してあった個別のパッチ内容ファイル(.pt1)をカレントパッチに読み込んで、ユニットに転送・書込します。

●【負荷属性】 ページ

○負荷属性をファイルに保存

負荷属性の設定内容をファイル(.atr)に保存します。

○負荷属性をファイルから読込・転送

あらかじめ保存してあった負荷属性ファイル(.atr)を読み込んで、ユニットに転送・書込します。

●【カーブ】 ページ

○カーブをファイルに保存

カーブの定義内容(1～4)をファイル(.crv)に保存します。

○カーブをファイルから読込・転送

あらかじめ保存してあったカーブ定義ファイル(.crv)を読み込んで、ユニットに転送・書込します。

3-8-2. 編集メニュー

- 【パッチ】 ページ

- 元に戻す

- パッチの設定を、現状の一つ前の状態に戻します。

- 連番チャンネル設定

- 出力→入力モードにおいて、選択中の複数の出力チャンネルに対して、指定した先頭入力チャンネルから連番でパッチを設定します。

- パッチ解除

- 選択中のチャンネルのパッチを解除します。

- このパッチをクリア

- カレントパッチの内容をクリアします。

- このパッチを1対1接続

- カレントパッチの1～512チャンネルを1対1接続します。

- パッチユニットのメモリも変更されます。

- 全てのパッチをクリア

- 全てのパッチの内容をクリアします。パッチユニットのメモリも全てクリアされます。

- 【カーブ】 ページ

- カーブの初期化

- 現在編集中的カーブを初期化(リニア)します。

3-8-3. リモートメニュー

- 全ページ共通

- 書込

- 現在開いているタブページの内容(パッチ、負荷属性、カーブ)を、パッチユニットに転送してメモリに書き込みます。

- 再接続

- パッチユニットの電源を切ったりケーブルを外したりして接続が一旦切れてしまった場合、再接続を試みます。

- 【パッチ】 ページ

- チェック ON

- 出力のチェック機能を有効にします。パッチテーブルで現在選択されている位置の出力チャンネルに対して、レベルスライダーで設定されている値を出力します。

- チェック OFF

- 出力のチェック機能を無効にし、通常のパッチ動作に戻ります。

3-8-4. 表示メニュー

- 【パッチ】 ページ
 - テーブル：出力→入力
 - パッチテーブルの表示形式を出力→入力モードに切り替えます。
 - 出力チャンネルに対してフェーダを指定したい場合はこちらを選びます。
 - テーブル：入力→出力
 - パッチテーブルの表示形式を入力→出力モードに切り替えます。
 - フェーダに対して出力チャンネルを割り当てたい場合はこちらを選びます。
 - 横幅：nnCh
 - テーブルの表示形式が出力→入力モードの場合、この項目を選択できます。
 - テーブルの横方向のチャンネル数を指定できます。
 - DMX チャンネルを A/B 表示
 - DMX チャンネルを、A001～A512、B001～B512 というようにユニバースに分けて表示します。チェックを外すと、1～1024 という連番になります。
 - なお、パッチチャンネルを入力する際には、チェックにかかわらず、どちらの書式でも受け付けます。
- 【カーブ】 ページ
 - 横幅：nn
 - カーブ値テーブルの列数を指定できます。

3-8-5. 設定メニュー

- オプション設定
 - USB シリアルポート
 - パッチユニットとの接続に用いる USB COM ポートを選択します。
 - 最大入力 Ch
 - 最大出力 Ch
 - パッチを行う際の表示およびキー入力のチャンネル数に制限をかけます。
 - 実際にはないチャンネルを誤って指定しないようにしたい場合などに設定してください。
 - 入力→出力モードで既存パッチを警告する
 - 入力→出力モードでパッチ編集時に、入力されたチャンネルがすでにパッチされている場合、警告メッセージを出します。

4. 入出力

4-1. DMX入出力

本製品は DMX IN A,B 2 系統、OUT A,B 2 系統により最大 1024ch を入出力します。
 IN,OUT 共に A コネクタは 1～512ch の入出力し、B コネクタは 513～1024ch の入出力を行います。
 また、入力信号を受信すると、製品の液晶のマークが、差し込まれたコネクタに応じて点滅致します。

4-2. 接点入力・タリー出力

本製品は、最大 8 パターンのパッチデータを保存することが出来、保存したパッチデータは本機の D-sub コネクタにワンショットの接点を送ることで、切り替えることができます。
 また、選択されたパッチパターンに対応したタリー信号を出力しています。

5. 付録

5-1. 仕様

入力 DMX コネクター 信号形式 接点 コネクター	ノイトリック XLR タイプ 5P DMX 5 1 2 D-sub 25pin メス 8回路 (Pin1-8 が入力 1 ~ 8 対応、Pin9-13:COM) タリー (Pin14-21 がパッチ 1 ~ 8 対応、Pin24.25:+5V) ※ 最大出力電流 300mA まで
出力 DMX コネクター 信号形式	ノイトリック XLR タイプ 5P DMX 5 1 2
電源 定格電力 外寸 動作温度、湿度	AC 90 ~ 240V 50 / 60Hz 5W W : 213 H : 42 D : 134 (突起部除く) 0°C ~ 50°C、10% ~ 85% (結露無し)

本製品及び本書の内容は予告なしに変更される事がありますのでご了承下さい。

(本書製作日2024年9月21日)